



起筆、收筆とも
かり押さえる

燕尾

止めから持ち上げて
右へ払う

向勢

止めから持ち上げて
右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う



向勢

止めから持ち上げて
右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う

右へ払う



そろえる

蚕頭燕尾

止めから持ち上げて
右へ払う

向勢

半紙を六つに折って各行の中心に書く

唐 顔真卿(七〇九〜七八五)
顔法の技法、倣書で書いてます。
顔真卿の楷書(健中告身帖)は、
縦、横の線の太さ、はね、払いに
特徴があります。雄大で重厚、
向勢でどっしりとした字形です。

蓄ゆる厚ければ発すること遠し

蓄うること大なれば、発することも

遠きに及ぶものである

(言志録)